

令和 5 年 6 月 18 日現在

機関番号：25403

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13122

研究課題名（和文）カンボジアにおけるOERを活用した小学校での体育授業モデルの構築

研究課題名（英文）A model for teaching physical education in primary schools in Cambodia using open educational resources

研究代表者

山平 芳美（YAMAHIRA, YOSHIMI）

広島市立大学・国際学部・講師

研究者番号：40645850

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、カンボジアの体育科教育の実情を鑑み、同国を対象とした体育実技のオープン教材（Open Educational Resources：OER）の開発とOERを活用した小学校の体育授業モデルの構築を目指したものである。1年目にカンボジアの初等教員養成校及び小学校における体育科教育に関する現状と課題の把握、2年目に初等教員養成校におけるOERを活用した体育授業の検討、3年目に小学校におけるOERを活用した体育授業の検討、4年目に初等教員養成校及び小学校におけるOERを活用した体育授業モデルの有用性に関する検証、以上を試みたものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、カンボジアの体育科教育の実情を鑑み、カンボジアを対象とした体育実技のオープン教材（OER）の開発と共有を実施してきた。また、開発途上国に対する体育科教育分野の支援に関しては日本が経験則を有しているとされて、国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）における事業の中でも学校体育支援が中心に行われてきた国がカンボジアである。本研究は、そのカンボジアの体育科教育に着目し、初等教員養成校や小学校に関する研究成果を発表してきた。

研究成果の概要（英文）：This study aims to use open educational resources (OER) for physical education in Cambodia to construct a model for primary school physical education classes. In the first year, I examined the current situation and issues related to physical education in Provincial Teacher Training College (PTTC) and primary schools in Cambodia; in the second year, we examined physical education classes using OER in a PTTC; in the third year, we examined physical education classes using OER in a primary school; and in the fourth year, we verified the usefulness of the model for physical education classes using OER in a PTTC and primary school.

研究分野：体育科教育学

キーワード：開発途上国 スポーツを通じた開発 国際協力 体育科教育 教材 教師教育

1. 研究開始当初の背景

2006年から2008年にかけて、カンボジア王国(以下「カンボジア」と略す)の教育・青少年・スポーツ省(Ministry of Education, Youth and Sport: 以下「MoEYS」と略す)は、日本のNPO法人ハート・オブ・ゴールド(Hearts of Gold: 以下「HoG」と略す)からJICA草の根技術協力事業による支援を受け、「カンボジア王国小学校保健体育科指導要領」を新訂した。さらに、2009年から2012年にかけて、HoGは、カンボジアの5つの州(小学校10校・初等教員養成(Provincial Teacher Training College: 以下「PTTC」と略す)5校)を対象にJICA草の根技術協力事業を展開し、カンボジア側の自立的な体育科教育の普及体制の確立を促してきた。このように、カンボジアの体育科教育は、日本のサポートを受け体育科教育の普及が進められてきたことがわかる。そこで、これまで継続的に支援が行われてきた、カンボジアの中でも小学校やPTTCを対象とし、同国の体育科教育に関する課題を明確にすることで、日本がこれまで蓄積してきた体育科教育における知見を活かした研究が可能になると考えられる。

まず、カンボジアのスポーツ分野に着目した場合、児童・生徒の体力に関する研究(千葉, 2010, 2011, 2012)、児童・生徒の健康に関する研究(渡部ほか, 2008)、スポーツを通じた社会開発に関する研究(岡田・ヤング, 2011; 岡田・山口, 2012)などが蓄積されている。次に、カンボジアの体育科教育分野に着目した場合、体育科教育の普及課題に関する研究(山口, 2012)、教材づくりに関する研究(大矢, 2013)、体育科教育の変遷に関する研究(山口ほか, 2014)、運動会の有用性に関する研究(山平, 2015)などがみられる。

カンボジアにおける体育科教育の支援状況や先行研究を踏まえ、カンボジアの小学校及びPTTCに着目し、同国を対象とした体育実技のオープン教材(Open Educational Resources: 以下「OER」と略す)を作成し、情報の共有を試みてきた(山平・木村, 2016)。これまでの研究をもとに、カンボジアを対象とした体育実技のOERの有用性とOERを活用した体育授業モデルの構築は、カンボジアの体育科教育にとって新たな研究といえるのではないかという考えに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、カンボジアの体育科教育の現状をソフト面とハード面の視座で現状と課題課題を明らかにし、同国を対象とした体育実技のOERの開発とOERを活用した小学校の体育授業モデルの構築を目指した。

3. 研究の方法

調査研究実施国はカンボジアで、MoEYSによって研究指定校プレート(体育)が授与されたS州を選定した。S州の小学校及びPTTCを対象として、本研究の目的を達成するために、以下の(1)から(4)について検討した。

- (1) 小学校及びPTTCの体育科教育に関する現状と課題を、先行研究の整理やフィールドワークとインタビュー調査によって明らかにする。
- (2) 新たな体育実技に関するOERの開発を行い、PTTCを対象としたフィールドワーク及びPTTCの体育教員やPTTCの学生へのインタビュー調査と質問紙調査から、PTTCにおけるOERを活用した体育授業モデルの構築について検討する。
- (3) 小学校を対象としたフィールドワーク及び小学校教員へのインタビュー調査から、小学校におけるOERを活用した体育授業モデルの構築について検討する。
- (4) 小学校及びPTTCを対象としたフィールドワーク、小学校教員とPTTC関係者へのインタビュー調査から、OERを活用した体育授業モデルの有用性に関する検証を行う。

4. 研究成果

本研究の主な成果としては、以下の通りである。

1年目は、カンボジアの小学校及びPTTCに関する先行研究の整理を行い、現地フィールドワークやインタビュー調査を踏まえ、ソフト面とハード面の視座で同国の体育科教育の現状と課題を導き出した。その成果を踏まえ、2年目以降の小学校及びPTTCにおける調査を実施した。

2年目は、まず、カンボジアを対象とした新たな体育実技に関するOERの開発と共有を行った。また、PTTCにおける体育科教育法や教育実習を中心としたフィールドワーク及びPTTCの学生を対象としたインタビュー調査や質問紙調査を行い、PTTCにおけるOERを活用した体育授業モデルの構築について検討を行った。とりわけ、PTTCの学生が小学校における教育実習においてOERを参考としながら、体育授業を行っている傾向がみられた。

3年目は、継続してカンボジアを対象とした新たな体育実技に関するOERの開発と共有を行った。カンボジアの農村部及び都市部の小学校を対象としたフィールドワーク及び小学校教員を対象としたインタビュー調査を行い、小学校におけるOERを活用した体育授業モデルの構築について検討を行った。農村部及び都市部の一部の小学校教員が、OERを参考とした体育授業を行っていることが確認された。

一方、新型コロナウイルス感染症（以下「COVID-19」と略す）の拡大により、カンボジアでも教育機関では休校措置が取られるなど、影響を受けたことが窺える。休校期間中、小学校やPTTCではオンライン授業が行われたり、農村部の小学校では教員が直接児童に課題を届けたりする対応がとられていた。COVID-19感染拡大により、カンボジアへの入国制限措置等が取られていたため、休校期間中に小学校教員やPTTCの教員に対するオンラインのインタビュー調査を実施した。PTTCでは、オンライン授業の困難さが課題として挙げられていたものの、体育実技に関するOERがPTTCの学生に対して共有されるなどの対応がとられていた。しかし、農村部の小学校においてはオンライン授業を受けるためのインターネット環境の確保が課題として挙げられ、体育実技に関するOERを児童が直接的にオンライン授業として参考にするには困難な状況であることが明らかになった。

4年目は、COVID-19の影響による研究期間の延長を経て、入国制限措置や行動制限措置が緩和されたため、カンボジアの農村部及び都市部の小学校及びPTTCを対象としたフィールドワークを実施した。加えて、小学校教員及びPTTCの教員と学生を対象としたインタビュー調査を行い、小学校及びPTTCにおけるOERを活用した体育授業モデルの有用性に関する検証を行った。農村部及び都市部の一部の小学校教員が、体育実技に関するOERを参考にした体育授業を行っていること、PTTCの学生が運動会の種目に関するOERの開発を行っていたこと、PTTCの学生が教育実習において体育実技に関するOERを参考としていたこと、以上のことから小学校教員や学生にとって体育授業を検討する際に、体育実技に関するOERが有用である可能性が示唆された。

以上の通り、一部の小学校教員やPTTCの学生などを中心にカンボジアを対象とした体育実技に関するOERの利活用が確認されたものの、カンボジアのオンライン授業に完全に対応したOERではなかったことは課題として挙げられよう。

現在、2021年からカンボジアではHoGのJICA草の根技術協力事業によって、「小学校から高等学校まで一貫した高い質で学ぶ『Physical Education for All』プロジェクト」(JICA, online)が展開されている。今後、カンボジアにおける体育授業研究(Physical Education Lesson Study:以下「PELS」と略す)を介した、質の高い「よい体育授業」そのものをOERとして共有する試みなども有用ではないかと思われる。したがって、カンボジアで「よい体育授業」を行う教師の力量に着目した研究や質の高い「よい体育授業」を行うためのPELSに関する研究など、さらなる研究の蓄積が不可欠であると考えられる。

<引用文献>

- 千葉義信(2010)カンボジア王国における体格・体力測定: 体格・体力測定マニュアル. 国際経営論集, 40: 149-169.
- 千葉義信(2011)カンボジア児童の体格と体力との関係: 10歳児を対象にした報告. 国際経営論集, 41: 183-189.
- 千葉義信(2012)カンボジアにおける体格測定・体力テスト: マニュアルと測定結果. 国際経営論集, 44: 111-136.
- JICA (online) 事業概要表(草の根パートナー型). https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/ku57pq00000x9tkg-att/cam_31_p.pdf (参照日 2023年6月17日)
- 岡田千あき・ヤングケビン(2011)開発途上地域におけるスポーツを通じた社会開発: カンボジアの事例検証. 運動とスポーツの科学, 17(1): 91-99.
- 岡田千あき・山口泰雄(2012)開発途上地域におけるスポーツ参加と生活満足: カンボジア王国のサッカーリーグの事例から. 生涯スポーツ学研究, 8(2): 31-41.
- 大矢隆二(2013)カンボジアにおける体育科教育の現状からみた教材づくりの意義: 初等教育の体育学習に着目して. 常葉学園大学研究紀要. 教育学部, (33): 149-161.
- 渡部隼二・清水弘司・金龍(2008)カンボジアシェムリアップ州における児童・生徒の健康教育実態調査. 神奈川県立保健福祉大学誌, 5(1): 95-102.
- 山口拓(2012)カンボジアにおける教育政策に関する一考察: 体育科教育の普及課題. 体育学研究, 57(1): 297-313.
- 山口拓・千葉義信・土屋智美(2014)カンボジア王国における体育科教育の変遷I: 近代教育導入期(1863~1953年)における体育・スポーツの系譜. 筑波大学体育系紀要, 37: 53-62.
- 山平芳美(2015)カンボジアにおける運動会の有用性: 小学校を対象として. 国際武道大学研究紀要. (30): 83-92.
- 山平芳美・木村寿一(2016)インターネットを利用した身体運動に関する動画の情報提供: カンボジアにおける小学校体育の支援活動について. 国際武道大学研究紀要. (31): 93-103.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 山平芳美	4. 巻 31(2)
2. 論文標題 カンボジア社会発展の過程におけるサッカーの現状と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 31-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32204/jids.31.2_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山平芳美, 木村寿一, 齊藤一彦	4. 巻 1
2. 論文標題 日本におけるカンボジアの教員養成に関する研究の動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 スポーツと開発	6. 最初と最後の頁 21-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山平芳美	4. 巻 (1)
2. 論文標題 カンボジアにおける初等教員養成校の学生を対象とした体育授業観の形成過程に関する事例研究：被教育体験期と初等教員養成カリキュラムに着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究	6. 最初と最後の頁 578-587
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山平芳美 木村寿一 齊藤一彦 白石智也	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 カンボジアの学校教育における体育とスポーツに関する研究動向と課題整理：日本における研究に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 運動とスポーツの科学	6. 最初と最後の頁 175-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34611/jpess.26.2_175	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山平芳美 木村寿一 齊藤一彦 白石智也	4. 巻 25(2)
2. 論文標題 カンボジアの初等教員養成段階における体育授業観の様態に関する研究：特に「体育科教育法」受講前後の変容に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運動とスポーツの科学	6. 最初と最後の頁 71-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村寿一 山平芳美	4. 巻 35
2. 論文標題 カンボジア王国における運動会に関する意識調査：ブレア・シハヌーク州初等教員養成校の学生を対象に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際武道大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 89-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山平芳美、齊藤 一彦、白石 智也	4. 巻 67
2. 論文標題 カンボジアの初等教員養成における体育科教育法の現状と課題：シハヌークビル州とカンポット州の事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要. 第二部, 文化教育開発関連領域	6. 最初と最後の頁 269-278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/46793	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山平芳美	4. 巻 65
2. 論文標題 日本式運動会の海外輸出	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山平芳美
2. 発表標題 世界の体育：非認知能力や健康増進などの体育科教育の評価
3. 学会等名 「『スポーツと開発』ナレッジマネジメントネットワーク：世界の体育ワークショップ」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山平芳美
2. 発表標題 カンボジア王国
3. 学会等名 「『スポーツと開発』ナレッジマネジメントネットワーク：世界の体育ワークショップ」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山平芳美
2. 発表標題 スポーツと開発の全体像及び成果と課題：研究の視点から
3. 学会等名 スポーツ・フォー・トゥモロー・カンファレンス2023（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山平芳美，木村寿一
2. 発表標題 カンボジアにおける体験的学習プログラムを通じた学生の学び：スポーツを通じた開発分野の事例
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会第30回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山平芳美, 木村寿一
2. 発表標題 COVID-19を踏まえたカンボジア王国における学校体育の現在と今後についての検討
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会 国際健康・スポーツ分科会第18回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山平芳美
2. 発表標題 日本の体育系大学生の国際協力に対する意識の変容に関する事例研究：ポストコロナ社会に着目して
3. 学会等名 第3回高専 x 地域研究交流会 in広島商船高専
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山平芳美, 木村寿一, 齊藤一彦
2. 発表標題 教員養成入学段階の学生が保持する体育に関する授業観・教師観・子ども観・教材観：カンボジアにおける初等教員養成校の事例
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会第26回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山平芳美, 木村寿一, 齊藤一彦
2. 発表標題 カンボジアの初等教員養成校における教育実習の実態と課題：教育実習生が行う体育授業に着目して
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会 国際健康・スポーツ分科会第17回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山平芳美, 齊藤一彦, 木村寿一
2. 発表標題 カンボジアの小学校教員養成学校における体育科教育に関する研究: 教員養成と小学校の接続に着目して
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会第25回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山平芳美, 齊藤一彦, 岩田昌太郎, 木村寿一
2. 発表標題 カンボジアの初等教員養成段階における体育授業観に関する基礎的研究: シハヌークビル州の事例
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会 国際健康・スポーツ分科会第16回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村寿一, 山平芳美
2. 発表標題 カンボジア王国における運動会に関する一考察: シハヌークビル州小学校教員養成学校の活動を事例に
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会 国際健康・スポーツ分科会第16回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山平芳美, 木村寿一
2. 発表標題 体育的行事である運動会がもたらす体育授業への影響: カンボジア王国における小学校教員養成学校との連携事例
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会 国際健康・スポーツ分科会第15回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山平芳美, 木村寿一
2. 発表標題 カンボジアにおける学習指導要領と体育授業の実情に関する課題整理：小学校及び小学校教員養成学校の事例を中心に
3. 学会等名 平成29年度千葉県体育学会第2回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村寿一, 山平芳美
2. 発表標題 国際武道大学における大学連携の取り組みと課題：スポーツ分野の国際協力の場合
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会 国際健康・スポーツ分科会第15回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>カンボジアを対象とした体育実技のOER (Sports Project in CAMBODIA) : https://www.youtube.com/channel/UCHgx6PfhTV6xz8wo-3Qv-yQ Facebookページ: Sports Project in Cambodia https://www.facebook.com/SportsProjectinCAMBODIA/ Facebookページ(クメール語): https://www.facebook.com/SPCKhmer</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	木村 寿一 (Kimura Toshikazu)	国際武道大学・体育学部・教授	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	齊藤 一彦 (Saito Kazuhiko)	広島大学大学院・人間社会科学研究科・教授	
研究協力者	白石 智也 (Shiraishi Tomoya)	広島文化学園大学・人間健康学部・助教	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関